

ミサゴ便り

平成 14 年 7 月 25 日発行

弓削野鳥の会編集発行



黄色いメジロは幸運の使者か

黄色いメジロを見た。メジロは本来深緑色の羽色と決め付けていたが、これだけ鮮やかに色が違う

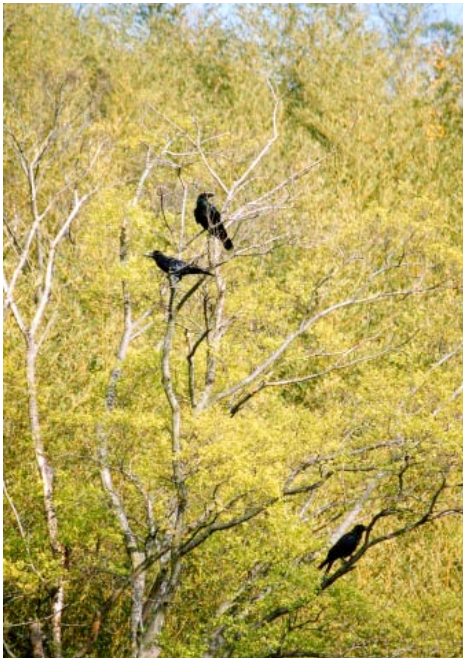
と飛翔していると必ず識別できる、胸は白色、頭と背中はレモンイエローとひととき目立ち、いつも雌雄一緒に餌を探しに、同じルートを行ったり来たりしているようです。どうも子育てに忙しそうで、道を通る人たちから変わったメジロを見たとの情報が飛び交い、町内でも噂が広まったようです。突然変異のアルビノか、ともかく温かい目で見守ってやりたいものです。

あまり騒ぐと心無い人が捕獲する可能性もあります。そっとしてやりましょう。(余談：ウグイス色とは、そ



もそもメジロをウグイスと見間違えてつけられたものとのこと、他にも間違えてつけられた鳥の名前も、コマドリ⇄アカヒゲ等)

短歌を始めて1年が来た。きっかけは短歌誌の編集をしていた兄の死。口は災いの元とはよく言ったモノで、亡兄の弔いの日に「大事な兄弟を喪ってさびしい。せめて自分も短歌の道に足を踏み入れ、亡兄の志など嗣ぎたい」と歌誌のメンバーに言ってしまった。半ば



本音、半ばはリップサービス。私のようにはずかいに物事を見る人間なら「ふんふん」と聞き流すところを、彼、彼女たちは我が事のように喜び、期待してくれた。亡兄がそこまで慕われていたということでもあろうが、素直な人はオソロシイ……。というようなわけで、毎月一首の歌会参加と（これ

はもちろん遠隔参加。何しろ開催地は東京）歌誌に載せてもらう作品10首ほどを作らねばならない。これには指導を受けるための倍ほどの作品が要る。素人の悲しさ、へどろもどろの1年であった。先輩に励まされすかされてやっと今日までこれた。短歌は圧倒的に語彙の多い人が有利だが、バードウォッチングにも通じるものがある。語彙を増やすためには、もっぱら言葉に接するしかないのも鳥

見につながる。昔から花鳥風月は最も一般的な歌材だが、日常想起する様々な思いをそれらに託して歌うこともまた、ものの見方を深める一助にはなるに違いない。バードウォッチングにはまっているからには、心して鳥の歌を作ろうとは思いつつ、なかなか様にならないのが悩みだが以下拙いながらお目汚しに供したい。ご笑読ください。

- ・満中陰法会の庭にうぐひすの来て愛しきや唱和するなり
- ・ナンテンの実を争へるジョウビタキ、ヒヨドリ、ツグミと狭庭騒がし
- ・里山は秋の実りに入らんとすサシバも集ひて英気養ふ
- ・鳥撃ちの放つ銃声ふたつして櫛の実ゆすり北の風くる
- ・奥山で小鳥観る吾のかたはらを犬も猟師も暗き眸にて往く
- ・デデポポと野鳩こずえに透けて啼き鳶まっ逆落としに海へ降下す
- ・うみねこの尾は一文字の墨刷きて金波銀波をはすかひに飛ぶ
- ・県鳥のこまどり聴きにいざゆかむ石鎚山系春来にけらし
- ・その紅き胸ぬちの想ひ絞り出しけふも啼きゐる森のこまどり
- ・群ぬちに黄色のめじろ一羽みて仲間外れでなきがいとよし
- ・さみどりの夢を見にけり汀には白鷺のみてさかんに漁る
- ・悠揚と螺旋ゑがきて昇りゆき二羽のハチクマ本土へと渡る
- ・秋にまた還りこよとて見送れば承知承知と翼振る鷹



- ・ 視野の端をかすめる影あり追ひゆかば一番燕のメの字を書く
- ・ 水面にはアオコ浮きたる池の辺を飛び交ふつばめわれも酸欠
- ・ 茜射す夕空映す水溜り幼もトンボもツバメものぞく

キリがないのでお終いにいたしましょう。辛抱して読んで下さり感謝！であります。

暑中お見舞い申し上げます。 埼玉県春日部市 谷井宜子

いきなり真夏日となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

6月20日頃に軽井沢の峠の茶屋から白糸の滝を歩きましたところ、滝まで来たところで、頭上で甲高いさえずり・・・何だろうと、水が



したたる岩を見上げると、3メートルほど先に見えました。「ミソサザイ」です。以前頂いた「ミサゴ便り」でみた写真が思い浮かび、確認することが

できました。初めての出会いと識別できたことで、とっても楽しい1日となりました。今日、7月7日には近くの公園へ早朝探鳥会に参加しました。暑いので鳥は少なかったですが、「ゴイサギ」の日でした。葦の茂みの中をよく見ると13羽ほどずんぐりと点々といて驚きました。中高年者ばかり27名の参加で、物知りの、昔のお兄さんがよく説明してくれるのですが、暑さには勝てず日陰を歩い

ていました。皆さん体に気をつけてどうぞお元気で。それではまた

今年は3羽の可愛い雛が巣立ちました。

アオバズク

今年もやって来ましたアオバズク、5月の中旬頃から巣作りを始め雌は1日中樹洞のなかで卵を温めていたようです、オスは松の枝に止まりもっぱらボディガード、およそ2月掛けて子育てに励んで

いたようで
日、最初の雛
羽だけかと
ら、次々と雛
現われてき
の日は2羽、



す。7月13
を確認、1
思っていた
が日ごとに
ました。次
また次の日

は3羽と増えていきます。7月14日には母親と一緒に3羽の雛が勢ぞろい、もう親から狩りの仕方を教えてもらって一人立ちできるようになったのか、最後のお別れをしていたのかも知れませんネ。次の日の15日には、とうとう一家離散状態でいなくなってしまうました。また、来年も元気に戻ってきて欲しいものです。



【アオバズク】

夏鳥として東南アジア方面から渡来、だいたい、毎年同じ場所に営巣し2羽から3羽の雛を育てているようです。

南シナ海の宝石(part 1) 松本敏和

朝7時に弓削を出て、バス、飛行機、高速フェリーと乗り継ぎホテルに着いたのは20時40分（日本時間22時40分）、15時間40分の旅の疲れと飲酒の疲れで遅い夕食をとるのが精一杯、すぐに眠りにつく。翌朝、鳥の声に目を覚ますと、5時過ぎなのに外はまだ暗く6時過ぎにようやく夜が明け始める。赤道に近いこの辺りでは、夏と冬の日照時間は10分の差もないことを後で聞く。早速双眼鏡を首から下げてバルコニーからバードウォッチングと思うが、双眼鏡が曇ってまったく見えない。肌にまとわりつくような湿気と熱気で双眼鏡は



拭いてもすぐに曇りまったく使いものにならない。鳥たちは朝食の時間らしく目の前の木々を数種の鳥が行き交う。ハト、ムクドリ、ホウジロに似ているが、日本では見たことがない種類だ。今、私はインドネシア北部の小さな島ビンタン島にいる。ビンタン島はシンガポールの南東約60kmに位置し淡路島の約5倍の面積で、島のほとんどが熱帯雨林のジャングルでありあまり高い山はなく、なだらかな丘が続く。現在、島の北側にインドネシア政府とシンガポール政府の

協力により、リゾート開発が進んでいる。私が宿泊したホテルもそのリゾート地の中の一つで、このホテルが立ち並ぶリゾート地から町まで車で 6 時間ぐらいかかる。ここのホテルの従業員は、ほとんどが周辺の島からの出稼ぎ(住込み)に頼っている。主な交通機関は輪タク（単車のタクシー）で料金も比較的安く近距離の移動によく使われている。オー

付壁無し)で朝食
下でガサガサと
いているのに気
たぶんスズメの



ブンカフェ（屋根
をしていると、足
小さな動物が動
づき覗き込むと、
一種と思われる

鳥がパン屑などを漁っている。ふと見上げると屋根の梁にたくさんの鳥たちが私の食事が終わるのを今か今かと待ちかねている様子だ。テーブルが空くと鳥たちは一斉にテーブルの上へ群がり、我先に朝食をとる。ウェーターも追い払おうともせず、ただ横を通り過ぎるだけ、鳥たちが1羽また1羽と食事を終えほとんどいなくなると、ウェーターが片付けにかかるという順序でここでは残飯整理も鳥任せということなのだろうか。ここの宿泊客のほとんどはホテル内のゴルフ場、プール、テニスコート、南シナ海に面した美しいビーチなど様々な施設を利用し、ゆっくりと流れる時間の中で心身をリフ

レッシュするのだが、鳥好き、自然好きを自負する私は河川をボートで上り、マングローブの森を探索するツアーに参加することにした。(次号へつづく)



竹ノ浦池のゴイサギも漸く成鳥になりました。幼鳥の時の褐色から成鳥の色彩になるまでに、3年はかかるそうです。目は黄色から次第に赤色に変わるとのこと。

編集後記

6月20日から愛媛銀行ロビーで開催しています「身近な鳥の写真展」についてですが、当初7月19日までの開催にしていたが、銀行からの要望もあり8月19日までに延期することになりました。また、帰省された人にも宣伝してください。よろしくお願いします。

また、11月の町展にも『弓削野鳥の会』として写真等展示したいと思いますので、作品の準備等そろそろ始めていてください。

【観察記録等の投稿のお願い】

(自然観察に関する原稿、たとえば、植物に関する原稿、海の生き物に関するもの等何でもかまいませんのでお寄せください)

連絡先：弓削野鳥の会事務局（村上尚）77-3607まで